令和７年度学校評価表

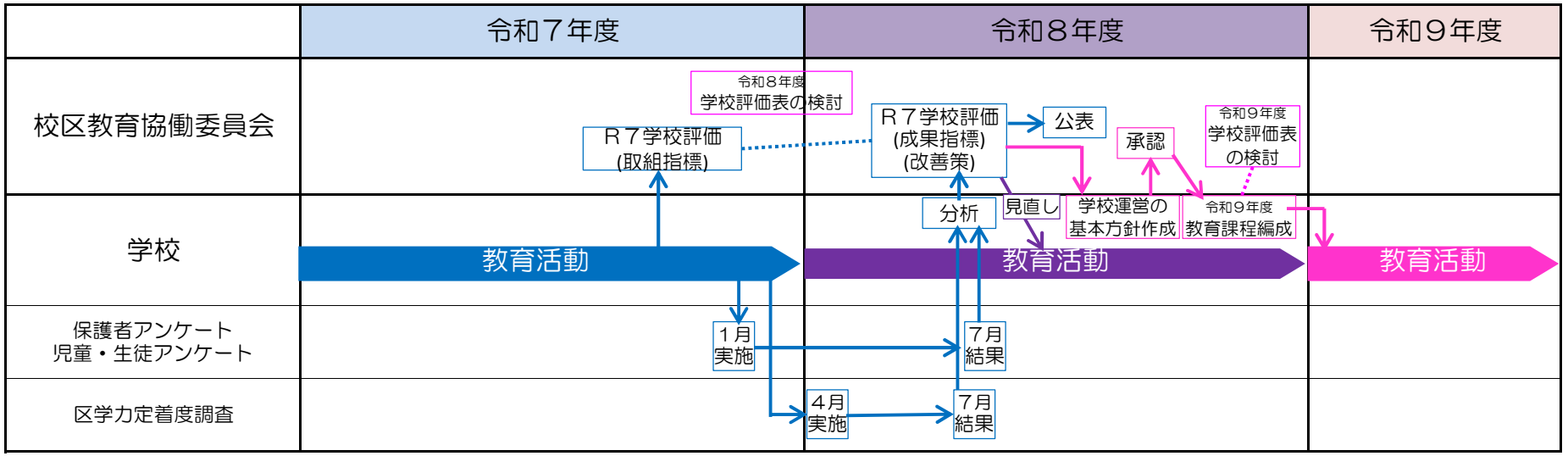
品川区立京陽小学校	校長	遠藤　和朗	
京陽小学校校区教育協働委員会	委員長	関本　恵一	

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和5年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

⑴ 学力に関すること。
⑵ 人間性や社会性に関すること。
⑶ 体力・健康に関すること。
⑷ いじめ防止の取組に関すること。
⑸ 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和７年度の学校評価が令和８年度および令和９年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和７年度　学校評価　品川区立京陽小学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標	◎確かな学力と、学びに向かう力を育てる。 ◇豊かな「出会い」をもとに、様々な課題や事象について主体的に学ぼうとする力を育む。 ◇自ら課題を見付け、これまで得た知識や技能を生かし、自ら学び、考え、発信する力を育む。（探究学習） ◇タブレット端末の効果的な活用を図ると共に、思考・判断・表現の基礎としての、読解力・計算力を確実に定着させる。 ◇全校一致した指導を徹底させると共に、自分の思いや考えを表現し合う授業づくりを目指し、授業改善を図る。

評価指標	最上段：成果指標 ２段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 ２段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	区学力定着度調査（４月）では、全ての教科・学年について、昨年度の標準スコアを上回ることができる。	各教科目標値を上回っているが、各教科において一部領域に課題が見られる。 「理科」及び「社会科」については目標値に達していない領域がある。	B	区学力定着度調査では、４～６年理科、４年社会科において標準スコアを下回っている。 調査結果の分析を確実に行い、授業改善を図る。 学力分析報告会では、経年及び系統的に見ることによって、全学年の指導に生かすようにする。 １人１台のタブレット端末を活用し、思考力・判断力・表現力を高め、学力向上に繋げる。 全学年で教科の特性や発達の段階に応じて学習活動を工夫するなど、日々の授業を充実させる。 授業では、体験的な活動を効果的に取り入れるなど、学習意欲も喚起している。
	「５つの学習の約束」に則り、全校一致で日々の学習指導を展開する。	京陽スタンダードを全教員で共通理解し、児童に周知して指導をする。 校内研究協議会終了後や、学力調査分析報告会などの中で、各学年から５つの学習の約束の取り組み状況を報告する時間を設け、取り組んでいる。	B	
	あらゆる学習で、得た知識をどのように活用するか考え、自分の言葉で表現する場を充実させる。	ペア、グループなど、学習形態を工夫し、伝える場面や発表する場面を多く設定し取り組む。 様々な考え方を提示したり、日頃からノートの取り方を工夫させ、友達の意見をまとめて自分の意見と比較できるようにしている。	B	
	学ぶことに興味・関心をもたせ、見通しをもった学習活動を通して、主体的・協働的に学び、達成感を味わうことのできる授業を展開する。	興味が湧くように教材を工夫したり、話合い活動を多く取り入れたりした。 主体的な学びを重視することで、小集団での話し合いの活性化につなげている。	B	
	学年の発達段階に合わせて、宿題や自主学習を設定し、自学の習慣と力を身に付けさせる。	発達段階に合わせた課題を提示することができた。 宿題をすることだけで終えてしまう児童が多く、自ら課題を設定して取り組んだり予習については、引き続き課題となっている。	B	
	学力定着度調査分析報告会（８月）を実施し、結果を指導改善に活かすサイクルを確立する。	分析したことを意識して指導している。 校内研究協議会終了後や研究推進委員会で振り返っている。	A	
②	学習アンケートにおいて、「学習が楽しい・わかる」の回答を、８０％以上とする。	どの教科も目標値をクリアすることができている。 学年別でみても８割５分以上のスコアを示している。	A	校内研究では、児童の主体的な態度や探究心を育成する指導を追求し、意識的に働き掛けている。 基本的な事項についての理解について、確認する機会を意識的に位置付け、指導にあたっている。
	校内研究では、「学び合う子の育成」をテーマに、指導方法を工夫した授業を計画し、実践する。また、日常の学習活動では、タブレット端末を活用した授業展開の工夫を図る。	タブレットのメリット、デメリットを考え、場面によって使い分けることができた。 調べ学習の活用の際には、コピーペーストで終わらせてしまい、思考を深めていない児童がいる。	B	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立京陽小学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標	○社会性・人間性＝「思いやる心」であり、そのベースは、想像力であると考える。豊かな想像力を育むとともに、他者を思いやって行動する力を高める。 ◇他者と関わる活動、様々な体験を充実させ、他者を尊重して、適切に関わりながら行動する力を育む。 ◇自然・実物・本物に触れる体験を充実させ、体験を通して感じ、考え、学ぶことができるようにする。

評価指標	最上段：成果指標 ２段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 ２段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	学校アンケートの「自己認識」における肯定値を８０％以上にする。	「自己認識」に関わる事項についていくつかの項目を除き目標値を超えている。 「他者からの評価」については、前年度から引き続き、改善傾向である。	B	体験や本物の芸術に触れる体験などから、他者を思いやる気持ちや命の尊さ、美しいものから心が揺さぶられることなどを学び実感することができた。 今後も児童の発想を生かしながら、創造力や個性を育んでいく。
	学級・学年、たてわり班活動、地域の方々（異校種や異年齢の方々）との交流を充実させ、相手の気持ちを考え、他者のために行動する経験を多く積ませる。	縦割り班遊びだけではなく、清掃や行事も行うことができた。６年生も主体的に活動すると共に、各自がリーダーシップ発揮し、取り組んでいる。	A	
	学校行事などあらゆる場面で一人一人の児童の「出番」を保証し、適切に評価しながら、満足感・達成感を味わわせる。	スポーツフェスティバルやアートフェスティバルでは、各自が自分の役割を理解し、積極的に関与しながら取り組んでおり、満足感や達成感が味わえていると考える。	A	
	市民科で学習したことを自分の行動に生かし、実践する力を育てる。	学校の重点領域だけではなく、各学年課題のある領域に重きを置き学んできたことから、それぞれが課題意識をもちながら行動している場面をみることができた。	B	
②	「５つの生活の約束」について、肯定的評価をする児童を８０％以上とする。	挨拶については、改善が図られている。廊下の歩行については、一部課題も残っているがだいぶ改善されたと考える。時間を守って行動することについては、行事等だけではなく、通常期についてもよくなってきた。引き続き、更なる改善を図りたい。	B	生活習慣の改善には定期的な自己評価に加えて、教師の細やかな声掛けや働き掛けが必要であり、それらを踏まえた実践をしている。 引き続き、継続的な取り組みと児童への評価について、丁寧に実践し、更に発展させていく。
	あいさつ・言葉遣い・廊下歩行等、全校で取り組む強化週間を企画、立案、実行する。	昨年度に引き続き、挨拶、児童の先生に対する態度に変容がみられている。挨拶を交わすことや全学年の児童とすれ違う時に感じる様子から、徐々に良くなっていると考える。	B	
	望ましい行動のあった児童を認めるなど、全教職員で一致して、自尊感情や自己肯定感を高める生活指導を展開する。	教員からも児童同士でも良いことは褒め合える環境づくりができた。一方で悪いことは悪いと、指導する場面もあるが、改善傾向にあるといえる。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立京陽小学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標	○「知」「徳」のベースとなる、「体」であることを理解し、進んで運動に親しむとともに、自ら健康づくりに取り組む力を育む。 ◇「２０分休みは外遊び」を重点とし、全校で一致して取り組み、体力向上を図る。 ◇スポーツタイムや家庭でのワンミニッツエクササイズを通して、運動の習慣を身に付けさせる。 ◇健康教育や保健指導、食育授業を充実させ、望ましい生活習慣の確実な定着と、心のたくましさの育成を図る。

評価指標	最上段：成果指標 ２段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 ２段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	生活習慣アンケートにおいて、「運動や外で体を動かす遊びが好き」の割合を８０％以上にする。	目標値を超えることができているとはいえ、体を動かすことに苦手意識をもっている児童も少なからずいる。体育の時間は勿論のこと、外遊びも活用しながら、改善を図っていく。	B	児童は運動や外で体を動かすことが好きである。一部苦手意識をもつ児童も含め、教職員は様々な工夫をしながら取り組んでいる。 ワンミニッツエクササイズについては、家庭と連携を図りながら、改善を常に意識し実践している。
	２０分休みは外遊びを徹底する。	中休みは、外に出て遊ぶことが基本であるが、教室に残留し、室内で遊んでいる児童もいる。教職員間で共通理解を図り、クラス遊びなどをを更なる徹底を図っていきたい。	B	
	月１回、各３０分間のスポーツタイムを設定し、スポーツトライアルを活用して運動に親しむとともに、ひらさん広場の使用により、運動の質を高める。	ワンミニッツエクササイズに短縄を盛り込む。 チームジャンプの前に、短縄を取り入れることで運動量を確保する。	B	
	家庭と連携しワンミニッツエクササイズを確実に継続させる。毎月評価し、児童の意欲を高める。	学習の始めと終わりの挨拶に、キャットレッチを取り入れたことで、授業へのスイッチが入っている。 スポーツタイムも児童は楽しんで取り組んでいる様子が伺える。	B	
	体力テストの状況を分析し、より一層の改善を図る。特に、全国平均を児童に示すなどして、自己の課題を明確にして目標をもたせる。	投げる力が全体的に課題であるが改善傾向である。 体力調査についても、学力調査のように綿密に課題を整理し、授業に生かしていきたい。	B	
②	児童は自らの健康に関心をもつとともに、健康の保持増進に取り組む。	日常的に熱中症対策や感染症対策を取りながら、保健指導を充実させ、健康に気を付けて学習活動や特別活動等を進めた。	B	健康の保持や増進へつながるよう意識を高め、引き続き取り組んでいきたい。
	学校医と連携した歯科指導等、健康啓発活動を実施する。併せて、全校で一致した保健指導や生活指導を展開し、自分の体や生活に対する正しい理解と行動を身に付けさせる。	学校医協力のもと、保健教育を充実させることができている。 自分の体や生活に関して理解していても、行動が伴わない児童が一定数いる。啓発を継続する。	A	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立京陽小学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標	○他者を大切にする心と、その素地となる、自尊感情や自己肯定感、自己有用感を育む。 ◇他者と関わる活動を充実させ、他者の気持ちに「思いを馳せる」経験を積ませる。（再掲） ◇生活に根差した市民科学習の充実を図る。 ◇「いじめはいつ起こっても不思議ではない」ことを前提に、常に児童一人一人の心の在り様を把握し未然防止に努める。

評価指標	最上段：成果指標 ２段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 ２段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	学校アンケートの「社会性」における肯定値を８０％以上にする。	今年度も昨年度と同様の傾向を示し、全学年おおむね８０％を超えている。「発信力」についても改善傾向を示している。	B	概ね良好であるが、経年でみると、本校の傾向として、自分の考えを表出する児童の割合が低い。 様々な行事や地域活動での実践を積む機会をもち、自分の考えを発信する積極性や自信をもたせたい。
	学校行事等と関連付けながら市民科学習を効果的に実施し、人間関係形成の実践力を高める。	市民科地区公開講座で６年生がワークショップ型の発表を行った。学校行事と関連付けた市民科授業を展開している。	A	
	「ぞうの気持ちデー」を始めとした児童会活動を充実させ、児童が主体的に行動したり解決したりする力を育成する。	バッジをつけるたびに、振り返る機会がもててよかった。 児童が主体的に活動しているおり、学校が一体となった取り組みができている。	A	
	「いじめ予防授業」「教員研修による組織的な取り組み」「児童・生徒１人１台端末を活用した調査ツールによる把握」の３本柱によりいじめ予防対策を強化する。	有効な手立てとして活用できている。	B	
	生活指導夕会や生活指導部会を通して、全教職員で児童についての情報共有を図り、組織的な対応に役立てる。	事案によっては、問題が明らかになってからの報告になっていることもある。 関係各所に報告・連絡・相談を確実に行うことが重要と考える。	B	
②	学校アンケートの「学級環境」における肯定値を８０％以上にする。	今年度もどの項目も肯定値は概ね８０％を超えている。昨年度と比較し、引き続き改善傾向である。	B	教師はいじめの芽がどこにでも存在することを自覚し、児童理解に努めるとともに、いじめの早期発見、早期解決に向けて、家庭や外部機関等との連携を図っている。 いじめと判断したら学校全体で組織として対応する体制を今後も継続する。 担任をはじめ各教員は、児童一人一人の様子を見取り寄り添うことや、人を傷つける言動は見過ごさず、すぐに指導するなど、事実や児童の気持ちに向き合うことを大切にする。
	担任・担当と児童との日常的な会話や観察、生活アンケート、SCによる面談なども活用し、常に児童の気持ちや思いを確実に把握する。	問題解決に向け迅速に対応している。 児童の想いに寄り添おうと対応に努めている。	B	
	学級経営上の諸問題を一人で抱えず、管理職、同僚に速やかに報告・連絡・相談を行う組織にする。また、保護者との連絡も密にし、協働して問題解決にあたる。	日常の課題を速やかに報告・相談ができた。保護者にも連絡し、課題解決に努めた。	B	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立京陽小学校

公開

評価項目５　（特色ある教育活動に関すること）

重点目標	○「出会いを通して学ぶ」ことのできる教育活動を展開する。 ◇しながわ多様性・多文化共生の取組みを充実させ、多様性を尊重し共生社会を自ら創ろうとする心情を育む。 ◇自然との出会い、人との出会い、本との出会いなど、様々な「出会い」を充実させ、豊かな学びを創る。 ◇このために、ＣＳの力を十分に活用する。また、一貫プランの策定に資するものとする。

評価指標	最上段：成果指標 ２段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 ２段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	様々な違いを肯定し、互いに認め合い支え合うことの大切さに対する理解を深める。	学習後の振り返りの記述などから、違いを肯定したり、互いに認め支え合うことの大切さについて、理解を深めている。	B	限られた機会と場の中で、児童に多様な見方・考え方をもてるようにするために、様々な機会に接することや、多様な考え方などを踏まえた働き掛けによって、インクルーシブな考え方を計画的にかつ継続的に推進する。 今後も、豊かな体験などを通して、差別や偏見なく行動できる児童を育成する。
	ボランティアマインドを重点に学習活動を立案し、障害者理解と国際理解につながる学習活動を行う。	英語教育では、イングリッシュウィークなど、充実した取り組みとなっている。 また、様々な芸術文化に触れることを通して、他者理解への学びを深めた。	B	
	持続可能な開発目標（SDGｓ）の達成に向けて、発達段階に応じた細やかな取り組みを行う。	SDGｓの取り組みでは、委員会活動を中心に、意識した目標を立てさせ実践した。 特別なことではなく、日常的に取り組むことであるとした認識で取り組んでいる。	B	
	高学年がリーダーシップを発揮し、委員会活動がより活発になるように促していく。	計画代表委員会では、既存の活動に加えて、京陽小学校をもっとよくするためにどうしたらよいかといった視点のもと、様々な取り組みをしている。	A	
②	戸越台中・宮前小とともに一貫プランの推進をする。	地域の方々から学んだり、共に活動したりするなど、地域の絆を確認することができた。戸越台中・宮前小と共に学びを広げていけるようにしたい。	A	経年で実施しているところであるが、今年度も多くの地域の方々を外部講師としてお迎えし、様々な取り組みをされている方々から学ぶ機会を得ることができた。 教育効果の向上には、保護者の皆様や地域の方々との信頼関係がより重要であることを改めて実感した。 今後もブラッシュアップをしながら継続していく。
	２～４学年は地域学習（商店街や公共施設）の一層の充実を図り、５・６学年においては、ドリームジョブ授業を充実・深化させる。	各学年が積極的に取り組んでいる。 地域学習は、周辺の協力が厚く、充実している。	A	
③	「出会い」を育む環境を整備する。	CSの力を生かした一貫プランの学習では、地域との繋がりや、東京都や文化庁の施策を受け、講師等を招聘した学習など、環境を整備できた。	A	今年度も様々な教育活動に取り組むことができた。 継続して実践しているものの他にも、新規の取り組みも行うこともできた。 子供たちの体験格差に繋がらないよう、多彩な取り組みをすすめていく。
	図書館ボランティアや読み聞かせボランティア、菊の栽培や田植え、京陽の森などの活動を支えるボランティア、クラブ活動や学年行事など、地域ボランティアの力を得ながら、様々な活動を充実させる。	本校の教育活動において、これまでも様々な形でボランティアの方々による支援を受けた取り組みを実践してきた。充実した教育活動の一助として、多方面で助けられていると実感している。引き続き連携を図りながら進めていきたい。	A	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成